



「○○の秋」をむかえて・・・

○○には、何を入れますか・・・？



「○○の秋」の○○には、「スポーツの秋」「勉学の秋」「読書の秋」「芸術の秋」「行楽の秋」「食欲の秋」など、いろいろな言葉を入れることができます。どの言葉が一番に浮かぶでしょうか。

15日は、授業参観に多くの保護者のみなさまに子どもたちの学習の様子をご覧いただきました。「勉学の秋」を感じていただくことができていましたら、大変嬉しく思います。

さて、「百聞は一見に如かず」（広辞苑：何度も聞くより、一度実際に自分の目で見る方がまさる。）ということわざがあります。このことわざをただ字義通りに捉えるだけではなく、学びを深め、物事の道理を理解していくためには、話をよく聞き、自分なりにイメージをふくらませ、その上で実際に目にしてみる、実際に触れてみる、実際に音や声を聴いてみるのが大切です。そうすることで、「思っていたのと違って、○○だな。」「考えていたことは、こういうことだったんだ。」など、**自分の考えていたことがより明確になり、興味関心がより高まる**はずです。

このような前向きな気持ちが主体性、つまり「やる気」につながっていきます。子どもたちひとりひとりの「やる気」を引き出し、**継続させていくことが、本当の学ぶ力、生きる力になるのだ**と思います。

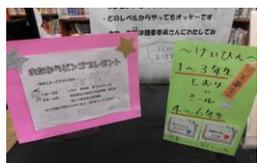
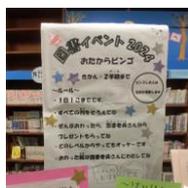
「○○の秋」をさまざまな「やる気」が育つ秋になるように、子どもたちにあたたかい励ましの声をかけていきたいと考えています。

「読書の秋」



「読書の秋」という表現は、中国・唐の時代の文章家・詩人である韓愈（西暦768年～824年）が自身の息子のために、学問の大切さを説いた詩の中の「燈火親しむべし（秋の夜は涼しさが気持ちよく、灯りのもと、読書するにはとても適している。）」という一説が由来だと言われています。親が子どもに「学問は、読書が一番だ。息子よ、読書をしなさい！」という親心を込めて詠まれた詩ということです。ずいぶん昔から「読書の秋」は人々に親しまれてきた言葉だと想像できます。

蹉跎西小学校の図書館も「読書の秋」にふさわしく、様々なイベントが行われています。



「芸術の秋」



「芸術の秋」の由来は、1918年に発行された雑誌「新潮」で使われた「美術の秋」という表現がもとになっていると言われています。

今年度の枚方平和ポスター作品展で入賞した児童の作品です。（職員室前に掲示しています。）



12/2～12/6の作品展もお楽しみに！
力作が体育館に並びます。